

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00651

研究課題名(和文) 対称的ラベル付け構造の実証的・理論的研究

研究課題名(英文) Empirical and theoretical studies on symmetrically labelled structures

研究代表者

松山 哲也 (Matsuyama, Tetsuya)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：90315739

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は、Citko (2011) が提唱する対称的ラベル付け構造を裏付ける経験的基盤を英語の構文から補強し、対称的ラベル付けを精緻化することであった。筆者は、一見異なる構文のように見える疑似関係節構文と比較相関構文について、Citko (2011) の対称的ラベル付けの観点から統一的な説明を与えることを試みた。研究成果を拙論「対称的ラベル付けによる疑似関係節構文の分析」(『学芸』(和歌山大学学芸学会 66巻 p.1 - 8) にまとめて公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、一見異なる構文に見える疑似関係節と比較相関構文について類似性を記述して、それらに対してCitko (2011) の対称的構造の観点から統一的な説明を与えたことであった。両構文の類似性については、先行研究ではあまり言及されておらず、本研究で初めて記述されたものと思われる。これをもとに文法書等の記述の整理に多少なりとも貢献できると思われる。また、疑似関係節構文の対称的ラベル付けの分析は、共有素性によってラベル付けを行うというChomsky (2013) のラベル付けアルゴリズムの考えを補強するとも考えられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of our study was to provide empirical evidence for the existence of symmetrically labelled structures, which have been argued by Citko (2011) contrary to the claim that the core relations of syntactic structures are asymmetrical (Kayne (1994)). Citko's theory of symmetric labeling has allowed us to give a unified account of apparently different phenomena---pseudo-relative clause constructions (e.g., There are many Americans who condone violence.) and comparative correlative constructions (e.g., The more you have, the more you want.). One of the findings of our study has been presented in Gakugei 66 (p.1-8) under the title "An Analysis of Pseudo-relative Constructions under the Theory of Symmetric Labelling".

研究分野：英語学

キーワード：対称的ラベル付け 疑似関係節 比較相関構文 主語接触節

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

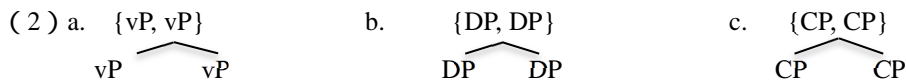
様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

Citko (2011:177-178) は、併合される要素 と がその範疇素性の点で同一であるならば、その範疇素性の和集合 (union) がラベルになると提案している。例えば、(1a) のように XP 同士が同じ範疇素性を共有しているので、それがラベルとなる。このラベル付けを対称的ラベル付け (symmetric labeling) と呼ぶ。一方、(1b) のように Y と X の範疇素性が同一でない場合は、対称的ラベル付けができない。



Citko は、次のような対称的ラベル付け構造の存在を立証している。(2a) は、動詞連結構文、(2b) は、イタリア語の小節、(2c) は、the more you have, the more you want のような比較相関構文 (comparative correlatives) に相当する。



このことは、共有素性のラベル付けには、Chomsky (2013) が示唆している Agree の他に、範疇素性同士の matching によるものが必要であることを示している。しかし、後者のラベル付けは、matching がどのように行われるのか、外的併合による対称的ラベル付け (2a-c) 以外に、内的併合によるものがあるのかといった理論的課題、さらに、比較相関構文以外に、対称的ラベル付けを裏付ける英語の構文が存在するのかといった経験的課題が残っている。

2．研究の目的

本研究は、上述の理論的、経験的課題に取り組むことであった。特に、英語の構文の分析を通して、範疇素性による対称的ラベル付けを裏付ける経験的基盤を補強し、対称的ラベル付けに理論的貢献をすることであった。この目的を果たす上で、筆者は、(3) の疑似関係節構文と (4) の主語接触節構文を分析の対象とした。

(3) There are many Americans who like opera.

(4) There was a ball of fire shot up through the seats in front of me. (Lambrecht 1988: 319)

3．研究の方法

本研究は、理論的な考察と言語事実との間を常に行き来し、理論偏重に陥ることなく各構文の分析を行った。具体的には、(5) の点に留意して研究を進めた。

(5) a. コーパスからの実例と英語母語話者の内省をうまく組み合わせて、より詳細な記述を行う。

b. (5a) から得られたデータを整理・分類し、類似構文と比較・対照させながら、各構文の特徴を浮き彫りにする。

c. (5b) から得られた特徴を踏まえつつ、各構文の先行分析の妥当性を検証していく。

(3) の疑似関係節構文を分析するに当たって、当該の構文が比較相関構文と同じような振る舞

いをすることに着目した。McCawley (1981) で指摘されているように、疑似関係節は、関係節が主節に格上げされているため、表面上は同じように見える制限的關係節と多くの点で異なる振る舞いをする。例えば、制限的關係節は、複合名詞句を作るため、その内部から wh 句を取り出すことはできないが、疑似關係節は比較的容易に可能である((6))。比較相關構文に関しても、從屬節が主節に格上げされているため、後続の主節と同じように取り出しが可能である((7a, b))。

(6) Violence is something that there are many Americans who condone.

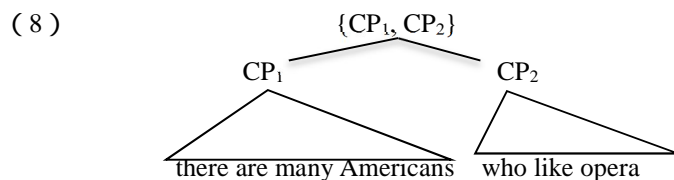
(McCawley 1981:108)

(7) a. a person who_i [the more you meet *t_i*], [the more you hate him]

b. a person who_i [the more you meet him], [the more you hate *t_i*]

(Culicover and Jackendoff 1999)

筆者は、これらの共通性を捉えるために、疑似關係節が、(2c) の比較相關構文と同じように、主節の CP₁ と關係節の CP₂ が構造的に姉妹關係にあり、それらが対称的にラベル付けされると仮定した。例えば、(3) の疑似關係節構文には、下記のようなラベル付けの構造が付与される。



(8) の並列的な構造は、(9a) のような疑似關係節構文が、(9b) のように 2 つの並列された単文によって書き換えられるということから 1 つの支持を得られた。

(9) a. There are some funerals that really affect you.

b. There are some funerals they really affect you.

(Lambrecht 1988: 331)

最終年度(2020年度)は、対称的ラベル付けの考えが、(4)の主語接触關係節に拡張できるという想定のもとで研究を進めていた。研究は思うように進まず、想定を変えざるを得なくなった。筆者は、位相主要部(phase head)の素性の一部が残留するという分離素性継承(Citko et al.(2018))の考えを組み入れて、主語接触節構文の分析を進めた。その成果を"Analysis of Subject Contact Relative Constructions Based on Split Feature Inheritance"としてまとめ、日本英語学会の機関紙 English Linguistics に投稿し、38 巻 1 号に掲載されることになった。

4. 研究成果

本研究の目的は、Citko (2011) が扱わなかった英語構文の分析を通して、対称的ラベル付けを裏付ける経験的基盤を補強し、同時に対称的ラベル付けの理論を精緻化し、Chomsky (2013) のラベル付け計算法に貢献をすることであった。主な研究成果としては、「対称的ラベル付けによる疑似關係節構文の分析」(『学芸』(和歌山大学学芸学会) 66 巻 1- 8, 2020 年 3 月) が挙げられる。本稿では、一見異なる構文に見える疑似關係節と比較相關構文について共通性を記述して、それらに Citko (2011) の対称的構造の観点から統一的な説明を与えた。両構文の類似性については、先行研究ではあまり言及されておらず、本研究で初めて記述されたものと思われる。また、

疑似関係節構文の対称的ラベル付けの分析は、共有素性によってラベル付けするという Chomsky (2013) のラベル付けアルゴリズムの考えを補強する。

【引用文献】

Chomsky, N (2013) “Problems of Projection,” *Lingua* 130:33–49.

Citko, Barbara, Allison Germain, and Jacek Witkoś (2018) “If You Cannot Agree, Move On! On Labels and Non-nominative Subjects,” *Glossa* 3, 1-46.

Citko, B (2011) *Symmetry in Syntax: Merge, Move and Labels*, CUP, New York.

Culicover, P. and R. Jackendoff (1999) “The View from the Periphery: The English Comparative Correlative,” *Linguistic Inquiry* 30, 543-571.

Lambrecht, K. (1988) “There Was a Farmer Had a Dog: Syntactic Amalgams Re-visited,” *BLS* 14, 319–339.

McCawley, J. D. (1981) “The Syntax and Semantics of English Relative Clauses,” *Lingua* 53, 99-149.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松山哲也	4. 巻 67
2. 論文標題 分離素性継承と非規範の主語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『学芸』（和歌山大学学芸学会）	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松山哲也	4. 巻 66
2. 論文標題 対称的ラベル付けによる擬似関係節構文の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『学芸』（和歌山大学学芸学会）	6. 最初と最後の頁 1- 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuya, Matsuyama	4. 巻 65
2. 論文標題 Remarks on the head-transfer approach to Free Relatives in English	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『学芸』（和歌山大学学芸学会）	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------